

芸備線ストロール③ 備後西城駅

「宮氏の旧跡をたどって」

川沿いの遊歩道を堪能」

12月13日(月)、朝の天気は薄曇り。平子駅前に車を停めて、午前7時47分発の備後落合行きに乗車。高駅に続いて、乗車したのはわたし一人だけだ。10分弱で備後西城駅に到着。一区間で料金は190円。西城紫水高校の生徒たちがぞろぞろと降車して、そのあとを追いかけると、ホームの先に

ある歩道へと降りて行く。降車時精算のワンマンカーなどで、改札を通る必要がなく、学校への近道なのだろう。引き返して線路を渡り、対面のホームにある改札を出た。駅舎（写真上）には「EKK INAKA」という地元産の蕎麦粉を使った手打ち蕎麦（火曜日限定）が評判の店がある

のだが、現在はコロナ禍もあって、休業中である。西城は古い城下町だ。戦国時代に奴可郡東部に勢力があった宮氏が、さらに領地を拡大して、奴可郡西部の大富山（おおとみやま）に城を築き居城を移した。東部の護りとしては、奴可郡東条に五品嶽城を置いた。それで東条は東城になり、西城という呼び名も生まれたのだろうと言われてる。そのあたりの歴史的背景は、武田祐三氏の名著「芸備線―中国山地の沿線物語、備後東城駅―三次駅」（シ



ンセイアート）にわかりやすく解説されている。

同書によると、江戸時代には西城町の周辺部は鉄生産で栄え、「西城、東城くろがね（黒鉄）どころ」と言われていた。西城駅のある五日市一帯は鍛冶屋が多かったところで、駅前にそびえる権現山には鉦（たたら）、鍛冶の神・金屋子神社が鎮座している。

西城川沿いに建物が並ぶ商店街（写真下）を散策した。閉店した店舗や廃屋が目につく。割烹旅館だった建物や美容院、写真館、時計店、農機具販売店等々。看板の文字や店構えから、賑わった往時の姿を思い描いた。都会の繁華街の雑踏よりも、こうした寂びれた商店街に愛着を感じるのは、年齢を重ねたせいだろうか。

川岸から土台が大きくせり出している店舗もあって、かつての繁盛ぶりがうかがわれる。敷地が少ないので、建物が細く歪（いびつ）である。大変な費用をかけても、出店するだけの価値があったのである。

商店街の中にある「珈琲屋洗心館」で休息。安原旅館の安原克さんが旅館の一角を改装したカフェスペースで、小



どんまりとした家庭的な雰囲気でも寛げる。利き酒ならぬ利き珈琲セットで、自家焙煎の三種類のブレンドを味わった。インスタントに馴らされてしまった味蕾でも、芳香や風味の違いが実感できるのは新鮮だった。

安原店主や地元の常連客の方々としばし談笑、西城が「お酒の町だった」という話は興味深い。飲食店ではなくても、店内の一角にテーブルが置かれていて、いつでもお酒を飲ませてくれたという。なじみの八百屋さんや乾物屋さんで一杯、ということが日常だったようだ。

昼前に店を出て、近くにある大富山に向かった。大富山城の内堀だっ



た入江川の橋を渡ると「頂上まで40分」の看板、少し登ると護国神社の前に出た。罰当たりにもビールの空缶が転がっている。商店街の「熊出没注意！」の貼り紙を思い出した。神のご加護だとばかりに空缶を拾い上げ、小枝をたたいいてパキパキと音を響かせた。

空缶をたたきながら、九十九折りの山道をどんどん登って行く。植林が途切れて、裸の樹林帯に入ると落ち葉の量が増える。何度か足をすべらせながらも、熊に遭遇することなく、ヒバゴンに会うこともなく、標高511・2メートルの頂上に到着。葉を落とした木々の隙間から、



西城の町並みが望見できる。

大富山城の本丸が建っていた場所（写真上）で、こんもりした落ち葉が地面を覆っている。思わず大の字になって寝転んだ。厚い落ち葉のクッションが心地よい。冬眠する熊の気持ち：…、慌てて立ち上がった、空缶と小枝を手にした。

下山して、庄原市役所西城支所のそばの居酒屋でランチ、温かいものが食べられるのはありがたい。

食後に「ウイル西城」を訪問。第三セクターの運営で、ショッピングセンターの奥に、まちの駅「伊那那美が眠るひばごんの郷」のエリアがある。「宮田武義記念館」が併設され

ていて、「山紫水明」と揮毫した額が目に入った。「日に照りはえて山が紫に見え、川が清らかに流れる」の意味で、ふるさと西城の自然を賛美。紫水高校の名前の由来だろうか。

宮田氏は西城町油木の生まれで、東京・日比谷に中華料理店の「山水楼」を創業。多くの著名人に愛されて、山水楼は映画や文学作品に数多く登場。氏は「比婆・道後・帝釈国定公園」の指定や「県民の森」開設にも尽力、西城町名誉町民賞を受賞している。

枝垂れ桜で有名な連照寺の前にある西城川の沿道（写真中）が「中国自然歩道」の一部になっていて、遊歩道として整備されている。栗地区の灌漑用の水路が並行して流れている。

平子方面に帰るのに偶然選んだのだが、散策には最高のロケーションだった。沿道に桜も植樹されていて、春に再訪したいと希（のぞ）んだ。

山裾の林を抜けると水田地帯で、西城川を離れて、小高い山の中腹にある浄久寺に向かった。曹洞宗三峰山浄久寺（写真下）、宮氏の菩提寺として建立された名刹である。境内の近くにある宮氏一門の墓所に参拝、眼下に栗や平子の里が一望できる。芸備線の列車が走っているのが見えた。

（次回は比婆山駅、情報提供を歓迎します。）



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「魂がふるえるとき」

宮本輝 編 文春文庫

心に残る物語—日本文学選、の副題。編者である宮本輝が選んだ短編の名作が16。川端康成の耽美な「片腕」に再会、水上勉の「太一」は文豪たちの作品に混じっても異彩。國木田独步の「忘れえぬ人々」の名文に酩酊、鮮やかな着地に唸った。

一番の収穫は、武田泰淳の「もの喰う女」。二股をかけている男が主人公。一人は新聞社に勤めている大柄な女性。もう一人は喫茶店で働く貧乏な若い女性で「食べることが一番うれしいわ」。デートの度に御馳走するのだが、食べる場面がとてモリアルで肉感的。食欲と性欲は人間の本质？名作は時代を経ても色褪せない。



「人生の救い」

車谷長吉 著 朝日文庫

朝日新聞土曜日別冊「be」に3年間掲載された「悩みのもつば」を編集したもの。お悩み相談の回答者が「反時代的毒虫」を自称する私小説作家の車谷長吉。ミスマッチに興味を覚えて読み始めたら、やはり大変なことになっている。巻末の解説で万城目学が「悩み事を片っ端から殺しているようにも見える」と書いている。



「嘆くというのは、虫のいい考えです。考えが甘いのです。覚悟がないのです。この世の苦しみを知ったところから真の人生は始まるのです」こんな調子だ。半ば呆れながら読了して、気分が軽くなっている自分がある。直言に肝が据わったのである。

「ケーキの切れない非行少年たち」

宮口幸治 著 新潮新書

児童精神科医として、医療少年院で数多くの凶悪犯罪の少年たちと接してきた著者の考察。医療少年院は発達障害・知的障害をもった非行少年が収容される、いわば少年院版特別支援学校といった施設。

「見る力、聞く力、見えないものを想像する力がとても弱く」、そのために勉強はおろか、対人関係で失敗したりイジメに遭ったりして、それが非行の原因にもなっている。用紙に丸く描いたケーキを三分割してくださいと言うと、とんでもない線を引く。怪物のようなイメージの凶悪犯罪者が、身近な隣人に見えてきた。障害の早期発見&支援で更生も可能、希望を覚えた。



どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣（店内専用通貨）であれば半額、現金であれば3割で買戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

庄原の不確かな歴史ドラマ

——永江の庄から現代まで①

「庄原」はいつから始まったか

音谷健郎

この町は変わり映えしない、と思
い込んで歩きながらふと気がつく。
「庄原」の旧本町筋はすっかり様変わ
りしているではありませんか。商店
街の店々はシャッター街となり、さ

らに進んで空き地となり、駐車場と
なり、さらにはいくつかの瀟洒な戸
立ちの家々が建っているではありませんか。
20年、30年前はどうだったか、
思いだせなくなっています。

そんなだから、50
前、百年前の様相はど
うだったのかはさらに
分からなくなっていま
す。

自分の町のことなの
に、記憶は随分とあや
ふやなのです。これは
ちよつと寂しいなどの
思いから、手近な資料
の範囲で往年の姿を少
し調べて見ることにし
ました。

真っ先に気になった
のが、「庄原」って町は、
いつ頃から出来たんだ
ろうかということでは
す。

庄原の由来を説く先駆的な書の『永江庄から庄原町へ』（1949年刊）は、数々ある説を丁寧で紹介した後、「徳川時代の中期に庄原村と称せられるようになり、その後も永江庄と併称せられていたのであろう」としています。「永江の庄（荘）」とは、荘園であることを指します。土地を中央政府が管理した律令制度のもと、貴族や寺社、武士が私的に管理した土地が「荘園」です。永江の庄は、京都・建仁寺の荘園と言われています。ではその地域はどこだったのでしょうか。明治22（1889）年に町村制が実施されたとき庄原、川手、宮内、永末の4村が合併して庄原村になったことから、永江の庄の字「庄原」とは、現在の旧市街地を指すのではなからうか。

この『永江庄——』の本は、176ヶとハンディーなものですが、当時の町長上原三衛が郷土誌編纂委員会を作って総力で編んでいます。それから約半世紀後、庄原市史編集委員会が編んだ『庄原市の歴史通史編』（2005年刊）は、様々な古文書をつきあわせて庄原の由来を特定しています。その結果、「建仁寺領備後国永江庄」の一文が見つかったことから、京都の建仁寺を領家と

する荘園として発展したのではない
か、との見方を強めています。

また、荘園の名は宮内八幡宮の宮
司・永江氏にちなむとの言い伝えも
あるが、「荘園成立にかかわる伝承は
見つかっていない」としています。

時代によって勢力範囲や領有主が
変わる荘園ですが、永江の庄の中心
はどこなのでしょう。『しょうばら』
（2000年刊）の著作のある歴史学
者武田一雄氏は、西城川を勝光山の
側に渡ったあたり、現在の住居表示
で「庄原市本町」と記載されている
字「柳原」に着目しています。

青木井手の上流の田んぼの中に小
さなお堂がぼつんとあります。「間所
薬師寺」と記されています。少し離
れたところには、宝篋印塔もありま
す。武田氏は、この辺りに、永江の
庄の「政所（まんどころ）」、つまり
政庁があったのではないかと、推察
しています。というのは、この奥に、
柳原・大仙谷が開けているからです。

武田氏は、大仙谷には「400枚
弱という歴史の古い水田があったこ
とを思わせる」と記しています。荘
園の痕跡として、「こうめん」「ゆう
めん」の屋号の家があることにも注
目しています。「免田」「木綿免田」
にちなむのではないかというのです。



早くから耕作されたと思える庄原・柳原、大仙谷の田んぼ
（右寄りの中段の段々畑）。手前を水平に走るのは芸備線。



庄原・柳原、西城川脇の「間所薬師堂」

上野池が整備されていかなかった中世には、今の市街地は水利に恵まれず、稲作の出来ない原野で、広い水田が分布していたのは大仙谷あたりに限られると考えるからです。大仙谷は、間口は狭いが、中は奥に広く、まん中の小山を挟んで、「㇏」の字に田んぼが続き、それに沿って集落が続くのです。

これとは別ですが、市街地の東、丑寅神社の入口から2番目の石の鳥居には、「奉寄進 備後国三上郡永江庄 庄原村、川手村氏子中」の文字が刻まれています。この鳥居のもう片方の柱には江戸時代の中期、「寶永三・丙戌年」（1706年）と読める文字があります。庄原が「永江の庄」であった生きた証言のようで、わくわくします。生きた証言は、他にも思わぬところで、「早く見つけてくれ」

と声をあげているような気がしてなりません。このシリーズは、読者の研究やご意見を反映したいと思しますので、掲載誌「どらくろあ」にご意見を書面やeメールでお寄せください。今回は、「九日市（くんちいち）」について調べてみます。参考：「丙戌（へいじゅう）」とは、「ひのえいぬ」の年回りです。



庄原・東本町、丑寅神社にある鳥居の刻印

— 絵本の無料レンタル —

イベントや集会の時などにお使いください。「箱貸し」します。図書館の除籍本や販売には難のある本ばかりなので、破損しても大丈夫です。ご希望の方はどら書房まで。

どら書房 委託販売コーナー

★「天馬書林」

新書の教養書や人生指南本、ノンフィクションが充実。

★「サワちゃん文庫」

中国、日本の歴史書、思想書が中心のラインアップ。

各専用棚で好評販売中！

「植物画とは何か」
—日本の植物図譜を中心に— (二)

「Flora Japonica」のオトコエシの図版には S.N.Cosstrom del. と記されているから、ツェンベリーが日本から持ち帰った標本によって S.N.Cosstrom が描いたものと考えられる。39の図版中、無署名のものもあるが、S.N.Cosstrom 以外に複数の画家の名前が見られるから、ツェンベリーは複数の画家に標本を見せ、指示しながら図を作成してもらったと考えられる。「Flora Japonica」の例から、標本に基づいて画家に図を描かせ、精密な植物の図を描く画家が18世紀にはすでに育っていたと考えられる。

現在でも作成された標本の写真だけではその植物の特徴をとらえることが難しく、どうしても精密に描かれた図が必要な場合がある。この例を竹田孝雄(1995)「広島県ササ類植物誌」のオヌカザサ *Sasa hibaconuca* Koidz. の作図の過程から見たい。

オヌカザサは備後比婆郡小奴可村(現在は広島県庄原市東城町小奴可)で採集された標本をタイプとして、1939年に小泉源一博士が新種記載されたササで、和名は基産地「小奴可」に基き、種名 *hibaconuca*、「比婆小奴可」に基く。

ササ類は花がめったに咲かないので、花以外の形質によって分類されるから、稈の節は稈鞘の着点のすぐ上部が目立ってふくらんでいるかどうか、肩毛は稈に直角に出ているかどうか、肩毛は前面に粗澁が見られるか、それとも平滑であるかを調べ、次に稈鞘の長さを調べササ属のどの節のものか確かめる。その結果、ササ属チマキザサ節とわかればさらに稈鞘にどんな毛が生えているか、葉の裏に毛があるかどうかを調べ、オヌカザサと同定されるので、画家にオヌカザサの標本と共に生品を見てもらい、分類上の重要な点を十分把握して頂いた上で、オヌカザサの図は描いていただいた。この図は庄原市在住の植物図作家、伊藤之敏氏の作品である。

このように植物学の発達、特に植物分類学の発達にともない標本からは伝わらない生きていたときの形状を精密に描いた図を「植物図」あるいは「植物画」といい、植物を精密に描く必要から生まれた技術・技法から生れたのが、「植物図」である。それはまさにボタニカルアート Botanical Art である。

2. 本草学から博物学へ

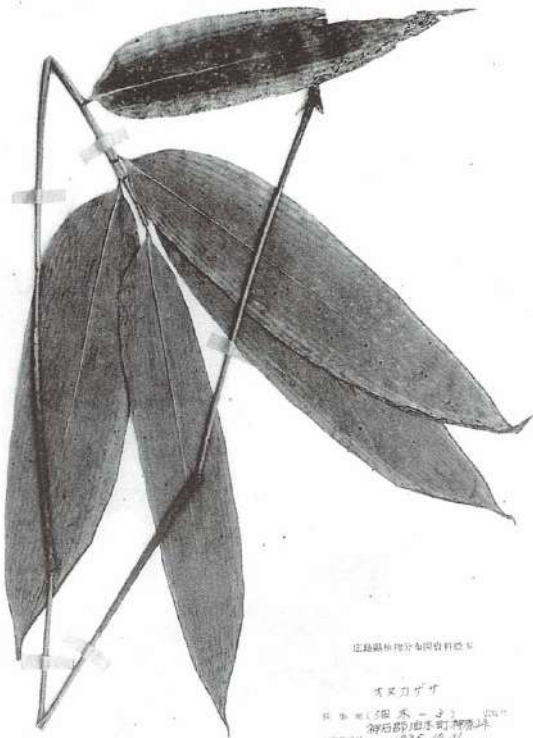
中国明の時代、李時珍(1518～1593)は、唐宋の時代から伝わる本草書の知見に加えて、李時珍自身が得た知見を加えて「本草綱目」を著した。この本草綱目が長崎に輸入されたのは1607(慶長12)年のこと、林羅山はそれを購入し、家康へ献じたことに始まり、1637(寛永14)年には最初の和刻本(日本版本)が刊行されたように多くの本草家が「本草綱目」を学習し、医者として患者の治療の拠りどころにしていた。

「本草綱目」は、治療に必要な植物・動物・鉱物など約1890種の薬物を記載した薬学書であり、医学書でもあるから、それらの薬物をどのように分類配列したら使用者にとって便利であるか考え、李時珍は独自の分類体系を考案し、薬物をどのように分類配列したら利用者にとって便利であるか考え、薬物を16部60類に分類して配列するが、「綱目」という名称の意義を「今通例十六部為綱六十類為目」としている。つまり、十六部を綱、六十類を目とするということで、薬物の大別を綱という単位に、細別を目

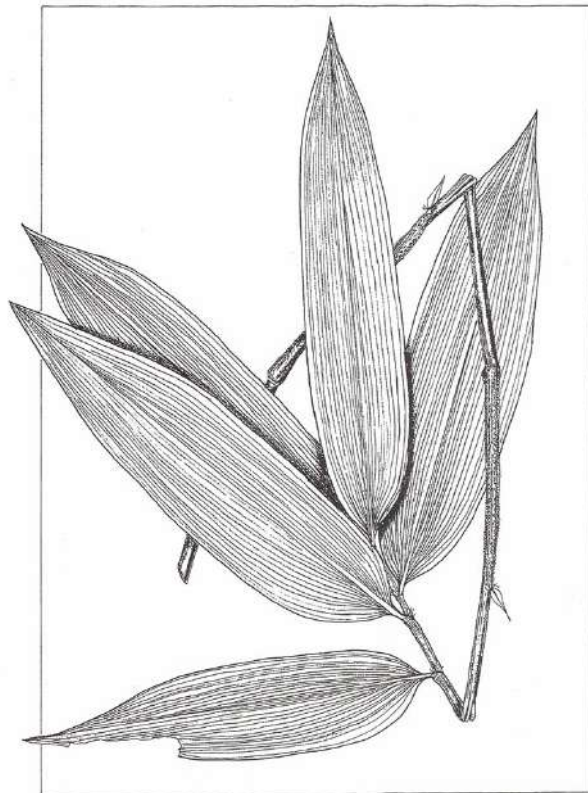
著者紹介…一九三一年、比婆郡(現・庄原市)比和町に生まれる。農学博士(九州大学)。昆虫や動植物などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びと」(シンセイアート出版)から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。

という単位としたことに「本草綱目」は由来する。漢方で強壯・鎮痛・健胃剤に用いるセッコク（石斛）は草部石草類に分類されている。



▲竹田孝雄が作成したオヌカザサの標本



▲標本と生品に基いて描かれたオヌカザサ

「つれづれ歌談」⑱

松岡初枝

新春とは言え、まだまだ寒さひとしおの頃、恋しい人が側にいなければ尚更のことです。

・秋の田の穂向きの寄れる片寄りに君に寄りな言痛くありとも

但馬皇女（たじまのひめみこ）
一方的に片寄っている穂のように片想いでもいい。世間が噂してもいい。ひたすらあの人に寄り添いたいものだから。

但馬皇女は穂積皇子（ほづみのみこ）に強い恋心を抱きますが、穂積は返歌さえしません。というのも、但馬と穂積は異母兄妹、共に天武天皇の子です。当時、母が異れば恋をしても特別な事ではなく、従兄妹程の距離感だったらしいのですが、さすがに穂積はその



気になれず、但馬の恋は悲恋に終り、やがて死んでしまいます。

・降る雪はあわにな降りそ吉隠（よなばり）の猪養（いかい）の岡の寒からまくに
穂積皇子

雪よあまり降り積もるなよ。あの岡に眠っている皇女が寒いだろうから。

但馬の死後、現し身が消えると急にその恋心の強さを実感しても、もう皇女はいない。可哀想なことをしたなあ。さぞ心も寒かっただろうに……。かくも理解し難い男女の恋心。

・君なくはなぞ身装はむ匣（くしげ）なる黄楊（つげ）の小櫛も取らむとも思（も）はず
播磨娘（はりまのおとめ）

あなたが居なくちゃ、もうお酒落する気にもなれないんだもの。

この娘は期限つきで赴任した役人に恋をした。彼は都に帰る。もう絶望しかありません。恋は切なく、娘は強くなるのです。

・寒いねと話しかければ寒いねと答える人のいるあたたかさ

俵万智

共感する人が側にいれば寒くないのに、思いどおりにならないのが世の常ですね。

「五十、五十一、五十二……」

石段を上がる度に、励ますように声をかけた。中学、高校と柔道部で鍛えられただけあって、背はさほど高くはないが、筋肉質の足腰は安定感がある。

「孝一、ばあちゃん、ちよつと腕が疲れたよ」

孫の疲労を慮って、声をかけた。

「ああ、ごめん」

石段の踊り場で、おぶっていたわたしの身体をやさしく降ろした。手拭いを手渡すと、顔をゴシゴシ擦るようにして汗を拭った。

踊り場の端の石段に腰かけて、登って来た石段を見下ろした。まだ縁石にかすかに雪が残っている。

「神社の石段に踊り場がある意味、知つとるか？」

五年前にタケさんと一緒に初詣に来たときにそう訊かれた。

「休むためじゃろうが」

鼻で笑われた。

「上って来た道を見下ろすためなんじゃと。今までの自分の人生を振り返って、自分で自分を褒めてやるんですよ」

誰かの受け売りなのだろうが、感心した。後悔ではなく、肯定して、褒めてあげるのだ。そう言ったタケ

さんも、二年前に亡くなっている。

「身体が冷えるから、そろそろ行こうか」

逞しい背中に抱きつくように身体を委ねた。

（わたしは満足しとるよ。こんなに優しい孫に恵まれたんじやもの）

炬燵で寝入ってしまった幼い孝一をおぶって運んだことが、まるで昨日の出来事のように。

あうん5

あきふゆひこ
亜木冬彦

現代御伽草子 ⑥4

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

「八十七！」

最後の石段を数えて首を傾げた。

子供の頃にも、石段を数えながら登ったことがある。わたしが百二十三、姉の由紀子が百十八、お互い自分が正しいと言いつ張った。

（ポケたんじゃろうか）

八十七は自分の歳の数だった。

左右二体の石の狛犬が迎えてくれる。右の口を開いた狛犬が阿形で、

左の口を閉じた狛犬が吽形。迫力はあるが、どこか愛嬌のある顔をしている。

拜殿の前で、背中から降ろしてもらい、孝一に身体を支えてもらいながら両手を合わせた。

（最後のお願いに参りました……）

顔は熾火のように火照っているのに、背中はゾクゾク寒気がする。体

ぐに発熱した。

個人病院の夜勤のバイトを増やしたのが原因だった。大学病院の薄給の研修医で、奨学金を返済しながら生活費を稼ぐには、自由になる夜間にバイトするしかない。何も問題がなければ、宿直室で朝まで寝ていられるのだが、最近は何故かトラブルが多く、睡眠不足が続いていた。

ドアをノックする音が聞こえた。返事をしようとしたが、声が掠れて出てこない。

枕元に人の気配がした。ドアの鍵はかけていたはずだと思いつながら、恐怖心は感じない。見上げると、看護師姿の若い女性が立っていた。うちの病院のナース？ 心配して来てくれた？ いや、違うな。こんな美人がいれば覚えておくはずだ。

ひんやりしたものが額に触れた。濡れたタオルを載せてくれたのだ。彼女がやさしく微笑んだ。どこかで会っているような気がするのだが、どうしても思い出せない。

何度かうつらうつらして、彼女と目が合うと、やさしく頷いてくれた。ホッとしている自分がある。彼女がそばにいてくれるのなら、このまま熱が下がらなくてもいいと思った。いつの間にか、本格的に寝入って



しまったようだ。カーテンの隙間から、朝の日射しが漏れている。布団から起き上がると、熱が下がっているのがわかった。部屋を見渡しても、彼女の姿はなかった。

(夢だったのか……)

唇を触った。彼女のやわかい唇の感触が残っている。

トイレに行こうとして、台所のレンジの上の土鍋が目に入った。一人用の土鍋の蓋を開けると、なつかしい匂いがただよってきた。挿った生姜をたっぷり入れた、卵とじのおか

ゆだった。

腹這いに伏せた狛犬の背中に、軽やかにまたがった。

(ばあさん、無茶をしたな。残り少ない寿命がさらに縮んじまったぞ)

だみ声が心に直接、響いてくる。(乙女に向かって、失礼なこと言わないですよ)

ガハハハという笑い声が身体の中で響いた。

気づいたら、無意識にそうしていたのだ。衰弱した孝一を目の前にして、口移しに、自分の生命力を注ぎ込んでいた。あなたの寝顔にそっくりだった……。

(わたしの、最初で最後のファーストキス)

そうつぶやいて、頬を赤らめた。

和弘さんとの結婚話が出たときは心底、腹が立った。幼子を抱えて大変だとはいえ、亡くなった姉の後釜なんてひどすぎる。それではまるで、意思のない道具と同じだ。あたしは家の奴隷じゃない……。

それでも結局、わたしはあなたのところに嫁いだ。家に従うか、家を出るかの二択しかなかった。そういう時代だった。

怒りにまかせて、わたしは子供の

母親にはなるけど、あなたの妻にはなりませんと宣言したわよね。でも、あれは、本心じゃなかった。わたしは、幼馴染のあなたのことがずっと好きだった。憧れていた。あなたと由紀子姉さんの縁談が決まった時、わたしは嫉妬して、ユキちゃんのことを逆恨みした。だから、あなたと夫婦になることに、後ろめたい気持ちもあったんだと思う。

ずるいよね。わたしが本心と言う前に、あなたはさっさとユキちゃんのところへ行っちゃうんだもの。(飛ぶぞー)

鬣(たてがみ)をしっかり掴んで、顔をうずめた。獣臭が鼻腔に押し寄せてくる。一気に跳躍、満月に向かって夜空を駆け上がる。

素晴らしい夜だった。本当は、孝一が働いている姿をそばで一目だけでも見たいと願った。そのために、入所している介護病院から、ナース服を無断借用してきたのだ。神様の最後のプレゼント……。

黄泉平坂神社は、余命いくばくもない善者の最後の願いをかなえてくれるという。阿形の狛犬は、年齢を若返らせる能力を持っている。吽形の狛犬は、時間を遡る能力を持っている。

まつの古本屋さん どろ書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
 - ・地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日(2月は店内整理で全休)
- TEL: 090(9913)3052
- 営業時間 9:30 ~ 18:30

※広島銀行庄原支店の手前(三次側から) ※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

「旧暦」のカレンダーを見る

古川行洋

三月三日上巳(じょうし、ひな祭り・桃の節句) 三月の一番はじめの巳の日のことで、中国の陰陽道では、この日は陰の極にあたり、非常に忌むべき日とされた。中国・魏(ぎ、二〇〇〜二六五)の時代以来、三月三日を上巳とした。古来、中国ではこの日、川のほとりに男女が集まり、災厄を祓う「上巳の祓い」と言う行事がおこなわれていた。また同時に文人たちは「曲水の宴」を催していたようだ。日本には、平安時代に取り入れられ、宮中では曲水の宴を張

り、祓いを行うようになった。やがて、曲水の宴はすたれたが、上巳は巳の日の祓いとして貴族の間に定着していった。これを日本でも「上巳の祓い」という。この日に一切の穢(けが)れや厄(わざ)わざうい)を祓い清めるために、草や紙で「人形(ひとがた)」を作って、それに穢れを移して川や海に流して不浄を祓った。今の流し雛の風習がこれである。

やがて、中世になると人形が現れ、平安時代に宮中で「ひいな遊び」が盛んであった。「ひいな遊び」と「ひとがた」が自然に結びつき、今の「雛祭り」になったと言われている。江戸時代の中頃になると、女の子の誕生を祝って初節句に雛人形を飾る風習も生まれ、いまに伝わっている。



嘉永年間の雛人形

「桃の節句」と言われるのは、中国では桃の枝を門にさして邪気を祓うという思想がある。これは鬼が香気や臭気に弱いため、桃の香気が鬼を追いはらうわけである。そして、この節句には白酒がつきものだが、白酒は元来「桃白酒」といって、もともとは白酒の中に桃の花を入れた。そして、それを飲むことにより、身体から悪魔・邪霊を追い出したわけである。

また、この日は嫁の里から祝ってもらった「雛人形を飾り、よもぎ餅、菱餅、あられ」などを作ってお供えする。よもぎ餅は、よもぎの香気が鬼を追いはらい、菱餅は人間の心臓を型どったものとして、わが子の健康を祈る親の気持ちの表れであった。

雛祭りは「草餅の節句」とも呼ばれた。菱餅は、下から緑、白、赤の順番に重ねられている。緑は新緑、白は雪、赤は桃の花の色を表して「雪の下には新芽が芽吹き、大地に桃の花が咲く」と、言ういわれである。それに、この三色の菱餅は、宮中の元旦の儀式の後、天皇、皇后が菱

花卉という餅を食べる風習があることから、これをヒントに菱餅が出来たのではないかとも言われている。雛祭りに蛤の吸い物を食べるのは、

蛤は自分の蓋でなければ絶対に合わないところから、女性の貞操と貞節を教えたものである。また、蛤の蓋は一对であるところから、夫婦仲良くという意味も含まれている。

行事が終れば、すぐ雛人形を片付けないと婚期が遅れるとも言われた。地域により、この日一日休業し、お花見に登山する所もあった。

※「曲水の宴」とは 中国の書聖、王羲之が三月の初め、会稽山(かいけいざん)の麓にある別邸、蘭亭に知人を招き、穢れを川に流す禊ぎをする曲水の宴を行った。水を引き、杯を流す曲水を作る。客人は水辺に並んで坐り、杯が目の前に流れて来るまでに詩を作り、出来なければ酒を飲み干さなければならぬ。この蘭亭での曲水の宴を、大伴旅人は手本にして催した。そして、家持へと受け継がれ、宮廷や貴族の邸宅などでも行われた。普通なら漢詩を創るはずであるが、和歌が詠じられた。

・「曲水の宴」が現在でも行われているところ 城南宮、上賀茂神社、北野天満宮

・「流し雛」の行事が現在でも開催されているところ 鳥取県用瀬町、奈良県五條市、和歌山県和歌山市加太

(次号に続く)

海外旅行ツアー「コンダクター・エピソード②」

ペルー編1・「巨岩の遺跡と空中都市」

山崎 允まこと

インカ帝国の首都クスコに向かって、機体は降下し始めた。いきなりアンデス山脈の頂上が足元に迫って来た！ 思わず足が引つかかるのはと座席の下に足を引いた。約六千メートルのアンデスの頂上を越えた瞬間だった。

海拔ゼロのペルー共和国の首都リマから飛行機で、富士山の頂上くらいの高地であるクスコに到着した。他の乗客が全員降りるのを待って、外部の気圧に少しでも慣れてもらうための時間稼ぎをした。お客様13人には、滑走路をまるでスローモーションのごとくゆっくり、ゆっくり歩いてもらった。ホテルに着いても高山病にならないために、少ない酸素に心臓の動きを対応させるべく、一時間横になってもらった。

その後、バスで世界遺産「サクサイワマン遺跡」に向かった。バスの乗り降り等もスローモーションで行動してもらった。通訳する私も息苦しくて大きな声が出せない。

遺跡はいつ、どこから、どのような方法でこんななどかいかい岩を運んだのか、そればかりか、前後左右に接している岩同士の切り口がまるでパズルのようにカットされ整然と重なり合い積み重ねられている。周辺にはこれ



サクサイワマン遺跡の一部
(ウィキペディアより転載)

ほど大きな岩(石)が存在しないのに、どうやってここに運び、どうやって岩(石)を切断・加工したのか、どうやって積み重ねたのか謎なのだ。ガイドが言う。お客様は、想像を絶する光景にあっけにとられて言葉が出てこない。ただただ驚きながら写真撮影に夢中だった。

翌日、マチュピチュ行の列車に乗るため駅に向かう。駅構内はものすごい混雑で、リュックサックは背中でなく自分のお腹の方に抱きかかえてもらい、貴重品を盗まれないように自己防衛してもらった。驚いたことに車内両端に「近畿車輛」と漢字のプレートが付いていた。頼もしいエンジン音を響かせて、我々をマチュピチュの遺跡へと運んでくれた。しかし、二度目に来た時にはヨーロッパ製の新造車輛に代わっていた。

3時間ほどで標高の低い1850メートルのマチュピチュ(ケチュア語で「老いた峰」)の遺跡の裾に到着。お客様には、かねて指示していた通りわき目も振らずに中型バスに乗りこんでもらう。300人近くの乗客が5、6台のバスに集中するため、満員になると頂上から引き返すバスを待たないといけないからだ。

バスは600メートル上の頂上ま

で13のヘアピンカーブを喘ぎながら登る、登る。標高約2280メートルの断崖に築かれたマチュピチュが目の前に広がる。今朝出て来たクスコから約千メートルも海拔が低いので、お客様は元氣を取り戻されたようだ。山裾からは遺跡の存在が確認できないことから「空中都市」と名付けられている。インカの王族や貴族のための避暑地として冬の都(離宮)や、田舎の別荘といった種類のものであったと言われ、千人に近い住民が生活していたようだ。

マチュピチュ遺跡が世界文化遺産に登録された当初、世界各国から友好都市協定への打診を受けていたが、福島県大玉村が初の友好都市協定の締結をした。かつてマチュピチュの村長を務め、村の発展に尽力した野内与吉が大玉村出身であったからである。彼は1917年に契約移民としてペルーへ渡って来たが、農園で奴隷のような扱いを受け、1年で辞め、米国、ブラジル等を放浪してペルーに戻り、クスコ・マチュピチュ間の鉄道敷設に尽力したことで、地元住民たち、国からの推薦で村長になった。同じ日本人である我々が迎えてもらえることに敬意を表さずにはいられなかった。

どろくろ俳壇&歌壇

※参加を歓迎します。

人間の寢床で猫の寝正月

近藤 昌平

古書店の軒に百円均一冬野菜

富久光

綿虫のあまた漂いぶつからず

片岡 正人

葉鶏頭うるほう影をうち重ね

西谷 白及

短日の空に鋭き梢かな

隆愚

北風に連れ去られたか寂聴尼

大槇 三代子

吹雪く夜は猫になって丸くなる

赤川 冬人

孫どちは進学先が決まりしと

松岡 初枝

報らせる電話十八の冬

投稿&寄稿

旬の日

「つめきりの日」

隆愚

五節句のひとつにあたる一月七日

の人日(じんじつ)に、今年も健康

でありますようにと願って、春の七

草、せり、なずな、ごぎょう(ははこぐさ)、はこべら(はこべ)、ほとけのぎ(こおにたびらこ)、すずな(蕪、かぶ)、すずしろ(大根)、のり(七草粥をいただく風習はご存じでしょうか)。

この一月七日を「つめきりの日」というのはご存じでしょうか。新年



明けて初めて爪を切る日が、一月七日とされています。

七草粥をつくる時、前日の晩に七草を包丁で叩いて水に浸しておいて、七日の朝に粥に入れるのが手順です。その粥をつくる前に、七草爪といって、七草を浸した水に爪をつけてやわらかくしてから切ると、その一年間かぜをひかないといわれています。

「暗い目」

赤川 仁洋

先日、若い二人組の男性が来訪し

た。各家庭の電気メーターがデジタル化されて、中国電力の委託を受けた当社と契約してもらわなければ、電気料金の明細書が届かないという。

「黄色い封筒なんですけど、中国電力から届いてないですか？ 今までは検針のおばちゃん個別に訪問して、電気料金の明細を郵便受けに入れていたんですが、デジタル化でそれが廃止になって、ネットか郵送かの選択になったんです。デジタル化のことは中国電力のホームページにも載っています」と、スマホの画面を見せてくる。

契約書にサインしようとして、二人組の男の一人が、暗い目をしていることが気になった。自分で確認したいからと、その場は引き取ってもらった。結果的にその契約書は、新電力会社への加入申込書で、彼らの言っていたことはすべてデータメだった。もらったはずの名刺も、いつの間にか消えている。

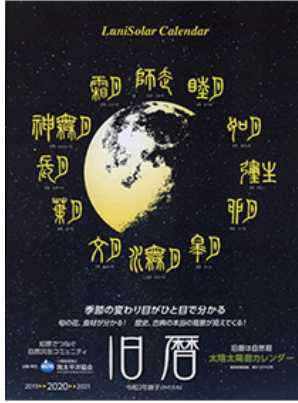
振り込め詐欺が減らない理由がわかったような気がした。ああ言えばこう言うで、細部まで返答がマニュアル化しているのだろう。暗い目をした彼は、罪悪感を覚えていた？

だったらまだ救いはあるのだが。

どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

- **一 硬式テニス参加者募集 一**
MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)
場所：三次運動公園の屋内&屋外コート
・ 火曜日 (9:30 ~ 12:00)
・ 水曜日 (9:30 ~ 12:00)
・ 土曜日 (10:00 ~ 12:00)
● 連絡先：中川 (☎070-8991-1682)



「旧暦カレンダー」 (販売価格：1,650円)

- ・日本の自然に根差した暦(こよみ)です。
- ・太陽暦でも太陰暦でもない、「太陰太陽暦」です。
- ・新暦(太陽暦)も併記しているので便利です。
- ・季節の行事や呼び名の意味が、より深く理解できます。
- ・自然災害の予測ができます。

どら書房にて令和4年度版 好評販売中！

《情報&原稿を募集します!!》

- 仲間募集
 - 教室&講座案内
 - イベント情報
 - あなたの大切な本の紹介
 - ボランティア・ライター(現地記者)募集！
- ※応募先はどら書房・赤川まで。
掲載は無料です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

徳岡政暁 陶芸作品コーナー

陶芸家、画家(徳岡佛性坊)として多彩な活動をしてきた故・徳岡政暁氏の陶芸作品の展示販売を、どら書房の一角でしています。
茶碗や花器、陶板や料理皿、多様な作品を展示しています。あなたのお気に入りの逸品が見つかるかもしれません。
※天井が低いので頭上注意！

どら書房無人野菜販売コーナー

新鮮で安全な野菜を店頭で販売(値札のないものは百円均一)。
毎週水曜日の朝に入荷予定。

●黒ニンニク好評販売中!●

(青森産ニンニクホワイト六片使用)

甘みと適度な酸味、ニンニク臭さはありません。
ポリフェノールを含み、抗酸化作用、滋養強壮などの効果が期待できます。

(80g入り 500円)

※売り切れのときはご容赦ください。

発行：どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10
☎090(9913)3052(赤川)
e-mail:touzin@nifty.com

誌面デザイン：ROUTE183
協賛：九日市愛好会

◇「暗い目」の後日談、警察に連絡して、周辺の開いている店を廻ってみたのですが、狙われたのはわたしの店だけだったようです。最初に撃退したから？ それともマネケで簡単に騙せそうな店主を選んだ？

◇謹賀新年、本年もよろしくお願ひします。

編集後記

◇新年号だからというわけではありませんが、14ページの拡大版です。寄稿が増えたのは嬉しいですね。しばらくは、このページ割が続く予定です。

◇音谷さんの新連載「庄原の不確かな歴史ドラマ」、どこか挑発的なタイトルですよね。「確かなこと」をご存じの方や異論のある方のご意見を歓迎します！

第 246 回

ひょうばらくんちいち 「庄原九日市」

令和 4 年 1 月 9 日 (日) 9:00~13:00

庄原九日市とは？

天正年間（440 年前）に物々交換で始まった市（いち）

昭和年代の戦争で途絶えていた市を、市街地活性化ボランティア活動として空き店舗などを活用し 2001 年に復活

TOPICS

★市民ギャラリー「アート多愛夢」

1 月 8 日～10 日 10 時～15 時

森下幸子パッチワーク作品展

★どら書房→休憩所あります！！

月曜日と火曜日はお休み

但し、九日市の日は営業します。

★楽笑座「まかない食堂」再開 限定 20 食

10:30~12:00

★楽笑座「うた声喫茶」再開 13:30~15:00

★きくや→総菜とお寿司の店頭サービス！！

★風龍→九日市スペシャルで餃子 200 円！

★カフェクラウド→タピオカドリンク 100 円引き

九日市特製ピタサンド 600 円

★HONMACHI STAND→コーヒー 100 円引き

出店配置図



出店申込みは、【毎月 20 日締切】コンパネ 1 枚スペース 1,000 円～ 九日市愛好会事務局
〒727-0013 庄原市西本町 2-1-10 楽笑座内 TEL/FAX 0824-72-8285

ホームページ
<http://www.kunchi-ichi.jp>

